

# 新型コロナウイルス感染防止対策 マニュアル



令和3年8月

## 北海道高等学校体育連盟ラグビー専門部

### 1 大会の開催および運営にあ

今後の各種大会の開催および運営にあたり、参加するチームの部員・顧問のほか、レフリー、大会役員、当番校職員、補助生徒らを含め、大会に関わるすべての人々の健康と安全を第一に考え、新型コロナウイルス感染予防のための十分な対策を講じていく必要があります。新型コロナウイルスに関する官公庁及び関係団体の知見と対策を基に、このたび道高体連ラグビー専門部としての対応策を取りまとめました。今年度ラグビー全道大会でも安心安全な大会運営を努めて参ります。

#### ■感染予防対策の基本的な考え方

感染予防の基本として、大会に関わるすべての人が「**マメな手洗いとうがい**」「**消毒**」「**マスク着用**」を心掛けること、さらに、日頃から「**密閉**」(＝換気の悪い閉鎖空間)「**密集**」(＝人が密集)「**密接**」(＝近距離での会話)の**三要素を避ける**ことが重要です。これらを確実に実施しながら、安全で安心な練習環境と大会運営を行っていきたいと思います。また、これらはグラウンド上ばかりでなく、日常の家庭生活や学校生活の中でも心掛けるべき習慣として、子ども達へのご指導をお願い致します。

また、出場校の部員および保護者に対し、新型コロナウイルス接触確認アプリ (COCOA) のダウンロードと

登録を積極的に呼びかけていただきますようお願いします。

## ■ラグビー部員に日頃から指導する事項

### ①体温チェック

朝晩2回の体温を同時刻、同環境でチェックし、記録に残す。37.5度以上の体温上昇が3～4日続くと感染の恐れがあるとされていますが、元々基礎体温が低い人もいて、一概に37.5度以上ということは言えないこともあるそうです。まずは、自分の平熱を知っておくことが重要なため、日常における体温チェックの重要性について指導をお願いします。また、「熱がある」「痰が出た」「鼻水が出た」を、○か×程度で継続的に記録することも良いです。

### ②こまめな手洗い

《効果的な手洗い》

人が触れるものは全てウイルスで感染されていると考えて対応してください。基本は、流水と石鹸で丁寧に洗うのが一番。手指用消毒液を使用する場合は、流水等で手洗いができない環境にある場合、補助的に用いて下さい。固形石鹸は菌が繁殖しやすいため、液体や泡のポンプから出す石鹸を使う。指先、手のひらのしわ、親指、指と指の間、手首などを30秒程度かけて丁寧に洗い、流し洗いを20秒程度行う。手洗い後は、使い捨てペーパータオルかタオルでふき取り、完全に乾燥させる。共有タオルは使わない。

《手洗いのタイミング》

外出から戻ったあと（外出中もスーパー等の出入り口に消毒液が設置されているので積極的に利用しましょう）、多くの人が触れたと思われる場所を触ったとき（ドアノブ、椅子、ロッカーの取手、タッチパネルなど）、咳・くしゃみ・鼻をかんだあと、食事の前（口からウイルスが入ることが感染の最大の要因）、ペット等の排泄物を取り扱ったあと、トイレを利用したあと（蓋を締めて汚物を流すこと）

### ③うがい

外出から戻った後や寝床前には必ず行う。うがい液を一度口に含み、口内を洗浄した後、次いで15秒程度2～3回、「お～」と言いながら喉の奥まで洗浄して下さい。

### ④マスク着用

不織布マスクが望ましい。学校では当然ながら、人混みに入るときは必ずマスクを着用する。熱中症の恐れがある場合は、早めの水分補給と体調を考慮しマスクの着脱を適切に行う。

### ⑤環境消毒

- ・よく触れる場所（ドアノブ・照明スイッチ・リモコン・トイレのレバー・手すり）などは1日2回程度消毒する。
- ・カバン、バック、スマホやキーケースなども消毒する。

### ⑥換気

日中は1～2時間ごとに窓やドアを開けるなどして部屋の空気を新鮮に保つ。エアコンは室内空気の循環であることから、定期的に外気を取り入れるよう注意を払う。

### ⑦食事と睡眠

バランスのとれた食事、十分な睡眠を心がけること。

## ■日常の活動時における留意事項（全チーム共通）

- ① 発熱（37.5℃以上）や咳など風邪の症状がある場合や体調不良な部員・保護者・家族及びチーム関係者は、活動を禁止する。同居者に同様な症状がある者も同様とする。
- ② 日常の活動で使用する用具類（ボール、マーカー、ボトル等）はマメに殺菌消毒を行う。
- ③ 密室空間でのミーティングや会合は行わない。食事は開放空間で行い、近接や向き合っの食事は避ける。
- ④ ラグビーの試合に必要な技術練習（スクラム、ラック、モール等）以外では、可能な限り密集、密接状態をつくらぬよう配慮する（例えば、アップにおける集団走、準備運動等）。
- ⑤ 練習および試合において唾や痰を吐くことは行わない。
- ⑥ 練習後は、速やかに手洗い、うがいを行う。
- ⑦ 水分補給時は選手個々のボトルを準備し、複数人による飲みまわしは行わない。

## ■本マニュアルに関する問い合わせ

本マニュアル中の不明点など、分からないことがある際の問い合わせ先は、

- ・大会全体ならびに競技に関する事柄

北海道ラグビーフットボール協会高校委員会、高体連ラグビー専門部 成田正人

小樽潮陵高等学校 TEL：0134-22-0754

- ・抗原検査に関する事柄

北海道ラグビーフットボール協会書記局 増田久士 TEL：090-4817-0532

## 2 大会準備と運営

### ■大会主管（支部専門部）および当番校へのお願い

#### ①すべての大会関係者の健康チェック

大会に出場する学校の関係者（全部員・顧問・スタッフ等）、当番校職員、補助生徒等に対し、大会2週間前からの『体調確認表(出場チーム部員用)』の記入をお願いし、代表者会議において『体調記録報告用紙(出場チーム部員用)』を提出する。

大会期間中は出場校から毎日『チーム健康観察シート(大会本部提出用)』を提出してもらう。

レフリー、大会役員に対しては、『体調記録報告用紙(レフリー・大会役員用)』の記入をお願いし、来場時に大会本部に提出してもらう。

#### ●健康チェックの手順(全部員・顧問)※団体参加者

①大会2週間前から体調確認を実施する。(各学校の様式を使用してもよい)

②顧問は、体調確認票(学校関係者用)を大会終了から1か月を目途に保管する。

※道立高校は以下の指示が北海道教育庁から出されています↓↓↓手続してください

#### 2 大会等参加前

(1) ～中略～なお、道立学校においては、当該健康観察（体温・体調・行動等入力フォーム等）を全道大会等参加の2日前に所管の教育局へ提出し、情報を共有すること。市町村立学校においては、当該市町村教育委員会に提出するなど情報共有を図る体制づくりに努めること。

- ③顧問は全部員に対して、2週間前からの体調確認票において体調に異常がないこと、出発前の簡易抗原検査で陰性が確認できた場合【体調記録報告用紙】を作成し代表者会議において提出する。
- ④顧問は、すべての試合において会場に入場する際に【当日提出】体調確認票(学校関係者)を提出する。  
※当日の検温は顧問立会いで実施すること。
- ⑤大会日程をすべて終了し、現地から離れる前に再度、簡易抗原検査を実施し陰性であることを確認する。

### ●健康チェックの手順(大会役員・レフリー)※個人参加者

- ①大会役員・レフリーは、2週間前から体調確認を実施する。※【体調記録報告用紙】を使用
- ②大会役員・レフリーは【体調記録報告用紙】(レフリー・大会役員用)において体調に異常がないこと、出発前の簡易抗原検査で陰性が確認できた場合【体調記録報告用紙】を作成し来場した際に本部に提出する。
- ③大会役員・レフリーはすべての試合において会場に入場する際に、検温と健康チェックシート記入し会場内へ入る。
- ④大会日程をすべて終了し、現地から離れる前に再度、簡易抗原検査を実施し陰性であることを確認する。

### ②観客について

原則、無観客で開催します。状況が変化しましたら専門部・当番校等で検討しお知らせします。

### ③感染予防のための備品、消耗品等の準備

大会会場における消毒液、ペーパータオル、非接触型体温計設置など、万全の準備をします。

### ④大会会場における順路の作成

大会期間中、会場を往来する人々の接触を避けるため、可能な限り順路の作成をします。

### ⑤マスク着用の義務化呼びかけ

出場校の部員、顧問は勿論、レフリー、大会役員、当番校職員など、大会に関わるすべての人に、不織布マスク着用の呼びかけを行います(個々の判断でマスクの着脱を認めます。この場合は個々の間隔を2m以上確保するよう心がけてください。)

### ⑥式典等の簡略化

出場校の選手、大会役員等が密集するような場面を回避する意味で、開・閉会式、表彰等の式典は可能な限り簡略化して実施します。

## ■大会会場

【大前提】各校顧問(監督または部長)は、責任を持って入場管理を行う。

- ①大会期間中は毎日、『出場チーム 検温等確認表(様式2)』を専門部へ提出する。
- ②発熱(37.5℃以上)や咳など風邪症状がある選手、役員(大会運営に携わるスタッフ全員)、報道関係者は、会場内への立ち入りを禁止する。
- ③会場内を出入りする者は、必ず不織布マスクを着用する(個々の判断でマスクの着脱を認めます。この場合は個々の間隔を2m以上確保するよう心がけてください。)

#### 【非接触型体温計、消毒液等の設置】

- ①会場入り口とトイレ等に消毒液を設置する。
- ②会場入り口に非接触型の体温計を設置する。来場者で発熱（37.5℃以上）が認められた場合、会場内への立ち入りを禁止する。

#### 【会場内テント等】

- ①チームテント、役員テント、本部テント等には、可能な限りアルコール消毒液を用意する。その他必要に応じて設置する。
- ②テント内の長机、パイプ椅子等の除菌をマメに行う。
- ③チームテントの入れ替わり（前の試合のチームと後の試合のチーム）の際は、椅子等の除菌を行う。

#### 【チームベンチ（テント）】

- ①試合前のベンチ（テント）入りは、前試合チームとの接触を避けるため、時間を空けて入場する。
- ②ベンチ（テント）内のパイプ椅子、テーブル等は、試合前後に除菌する。
- ③ベンチ（テント）内から大声で指示を出したり、声援を発したりしない。
- ④選手の汗拭きタオル等は個人のもを使用し、絶対に共有しない。
- ⑤水分補給に使用するボトル等は選手ごとに個別のものを使用し、回し飲みは絶対に行わない。

#### 【広報・その他】

- ①大会役員は、上記の注意事項が守られているか定期的に巡回する。
- ②報道対応は試合終了後のみとする。原則、監督、主将、殊勲者のみとし、双方がマスクを着用し、会場外で行う。その際2m以上の間隔を保てるよう、時間はおおむね10分をめどとする。

## 3 大会出場校への伝達事項

### ■簡易抗原検査の実施

大会に出場する学校の関係者(全部員、顧問、スタッフ等)、レフリー、大会役員、当番校職員、補助生徒等に対し、

- ① 試合前日に抗原検査を実施し、陰性であることを確かめてから大会に参加する。ただし、宿泊を伴う大会参加については、出発前日に実施する。
- ② 大会に関する所定の日程を完了した時点で、もう一度、抗原検査を実施し、陰性であることを確かめる。宿泊を伴う大会参加については、開催地を離れる出発前に実施する。
- ③ 抗原検査は簡易キットで行う。簡易キットは北海道ラグビー協会が必要個数を購入する。自己負担は2回分一人1,000円とする。
- ③ 部員が抗原検査を行う際は、必ず顧問の立ち合いのもとで実施する。
- ④ 顧問は対象者全員の抗原検査の結果の管理にあたり、個々の名前を記入した簡易キットを、大会終了から1週間後まで保管する。

### ■大会会場までの移動

- ① 利用するバス会社へ、事前の車内消毒、運転手の体調管理、マスク、手袋着用、車内空調と換気ならびに着席を間引くなど物理的距離を保つことを依頼する。

- ② 移動中の飲食は慎む。

## ■大会出場に関わる宿泊および宿舎

- ① 日常生活同様、宿舎でも手洗い、うがい、消毒（家庭で行っている箇所は勿論）、換気を徹底する。
- ② 頻繁な部屋の出入りを控え、部屋及び施設内においてもマスクを着用する。
- ③ 一か所の部屋に多数が集まり、談笑するなどの行為を禁止する。
- ④ なるべく個室を利用する。大広間等で就寝する場合は、間隔を広げること。
- ⑤ 外食は控える。
- ⑥ 食堂内においても他の利用者と極力接触を避ける時間帯及び場所をセッティングする。極力、一方方向を向いて食事をとる。
- ⑦ ビュッフェスタイルではなく、なるべく個別の食事とするよう宿泊先と調整する。
- ⑧ 食事前には、必ず手洗いをし、食事中は黙食を心がける。
- ⑨ 大浴場を避け、個室の風呂を利用する。

## ■感染者が発生した場合の対応

- ① 速やかに当該校の校長に報告し、その後、道専門部に連絡の上で関係者間の情報共有をはかる。
- ② 感染者の隔離、治療、濃厚接触者の特定、施設の消毒など、国が定めた手順に則して、所在地の保健所の指示に従う。
- ③ 大会前2週間以内、大会に出場する学校の関係者(全部員、顧問、スタッフ等)、レフリー、大会役員、当番校職員、補助生徒等に対し、
  - ・医療機関のPCR検査で陽性判定を受けた場合は、来場出来ない。
  - ・48時間以上連続する発熱・咳・身体のだるさなど疑いのある症状を持っている場合は陽性疑いと見なし来場出来ない。
  - ・保健所による濃厚接触指定を受けた場合または暫定的な濃厚接触疑いがある場合は来場出来ない。
  - ・暫定的な濃厚接触疑いとは、陽性判定者との2日前以降の接触確認において、
    - ・1m以内マスクなしで15分以上話した
    - ・会食をした、隣席で飲食したに当てはまる場合とする。
- ④ 大会期間中、大会に出場する学校の関係者(全部員、顧問、スタッフ等)、レフリー、大会役員、当番校職員、補助生徒等に対し、
  - ・発熱・咳・身体のだるさなど疑いのある症状を持っている者があった場合は陽性疑いと見なし、即時PCR検査を実施できるよう本人による検体採取を行い、あらかじめ指定した医療機関に搬送するとともに、当該陽性疑い者の一時隔離を行う。
  - ・一時隔離では、当該陽性疑い者が宿泊する部屋から出ないこと、同室者は当該陽性疑い者と別の各個室に移し、それぞれが部屋から出ないことを遵守する。
  - ・陽性判定のあった場合、感染者の隔離と暫定的な濃厚接触疑い者の隔離を行う。
  - ・隔離では、同一フロアの各個室から出ないことを遵守する。
  - ・陽性判定者の医療機関または療養施設への搬送については保健所の指示に従う。
  - ・濃厚接触者の指定および検査については保健所の指示に従う。
  - ・濃厚接触者の移送または隔離の継続については保健所の指示に従う。
  - ・保健所の指示のもと施設の消毒を行う。

- ⑤ 大会後 3 日以内、大会に出場する学校の関係者(全部員、顧問、スタッフ等)、レフリー、大会役員、当番校職員、補助生徒等に対し、
- ▶大会終了後 3 日以内に陽性判定者があった場合は、暫定的な濃厚接触疑い者の特定を行い、当該濃厚接触疑い者に通知し、当該陽性判定者の住所を管轄する保健所に濃厚接触者リストを届ける。
  - ▶濃厚接触者の指定および検査については保健所の指示に従う。
  - ▶当該陽性者が宿泊した施設の消毒を行う。

## ■大会参加に関する対応

- ①大会前及び大会期間中、顧問及び参加申込書に記載されている生徒から感染者が出た場合、感染拡大防止の観点から、道専門部が保健所に意見を伺った上で、当該チームに対して出場辞退を勧告することができる。なお、大会日程の延期や変更は、当該校同士の合意の有無があった場合でも認めない。また、出場辞退となったチームが属する地区からの代替チームの出場は認めない。
- ②大会前及び大会期間中、顧問及び参加申込書に記載されている生徒が濃厚接触者に認定され欠員が生じる場合、道専門部が保健所に意見を伺った上で、登録変更を認める場合がある。認められた場合は、速やかに変更届を大会事務局に提出する。
- ③上項①、②の理由で不戦敗となったチーム及び相手チームの大会にかかる費用(バス代や宿泊費等)のキャンセル料は補償できない、

以上